

# 少子化に関する地域格差(合計特殊出生率の高い宮崎県との比較)①

・「奈良こどもすくすく・子育ていきいきプラン」策定過程において、近畿圏内で最も合計特殊出生率が高い滋賀県と奈良県の違いを分析  
 ・滋賀県では有配偶女性(25～29歳)の数が多く、男性就業者の正規雇用率や所得が高いことが判明  
 それらを踏まえ、プランでは、「社会全体での結婚から子育てまでの切れ目のない支援」、「ワークライフバランスの推進」、「若者と女性のしごととの安定」等を推進施策として位置づけ。

今回、前回の奈良県こども・子育て支援推進会議(H27年11月)の議論(奈良県と対極※の位置にある宮崎県との比較分析が必要)を受け、宮崎県と奈良県について比較分析 **※宮崎県は、合計特殊出生率が極めて高く(全国3位)、産業構造(フィールド)や若者の状況が奈良県と大きく異なる。**

- ①合計特殊出生率(H27) 宮崎県1.72(全国3位) 奈良県1.35(全国39位)      ②男性(25～39歳)の未婚率(H22) 宮崎県42.7%(全国47位) 奈良県48.5%(全国19位)
- ③15歳以上の一次産業従事者割合(H22) 宮崎11.4%(全国4位) 奈良2.6%(全国40位)      ④1日あたりの通勤時間の状況(H23) 宮崎県49分(全国47位) 奈良県89分(全国5位)

## 相違の分析～合計特殊出生率と人口の状況～

### ①合計特殊出生率※

・宮崎県内市町村は総じて合計特殊出生率が高い

奈良県:1.07(平群町)～1.49(十津川村) 宮崎県:1.48(国富町)～1.96(串間市) ※平成20～24年 人口動態保健所・市区町村別統計より

### ②人口の増減

・奈良県も宮崎県も人口全体は減少傾向(26人口:奈良県1,376,466人 宮崎県1,114,775人)

人口増減率※(26→27) 奈良県:-0.52%(-5.46%(黒滝村)～1.05%(王寺町) 増6市町 減33市町村  
 宮崎県:-0.64%(-3.59%(日之影町)～0.54%(木城町) 増2町 減24市町村

・人口の社会増減率は同程度(人口の社会減(26→27):奈良県-2,990人 宮崎県-2,969人)

人口の社会増減率※(26→27) 奈良県:-0.22%(-3.64%(野迫川村)～0.78%(川西町) 増8市町村 減31市町村  
 宮崎県:-0.27%(-2.23%(諸塚村)～0.83%(木城町) 増3町 減23市町村  
 ※奈良県と宮崎県の推計人口、人口動態より

・奈良県は若い世代(20～39歳)での社会減率が高く、宮崎県の2倍以上

特に男性に限っては宮崎県の3倍以上 ※総務省26年住民基本台帳人口移動報告 外国人含より

若い世代(20～39歳)人口の社会増減率※(26→27) 奈良県:-1.54%(男性-1.77% 女性-1.31%)  
 宮崎県:-0.72%(男性-0.54% 女性-0.89%)

### ③年齢構成の特徴

・奈良県は宮崎県よりも若い世代(20～39歳)の人口割合が高い

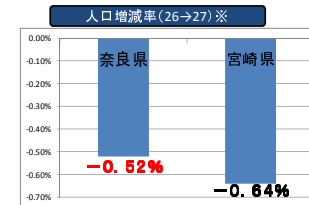
26年 奈良県:21.84% 宮崎県:19.51% 全国:22.84%

・一方、奈良県は宮崎県よりも若い世代(20～39歳)の人口割合の減少率が高い

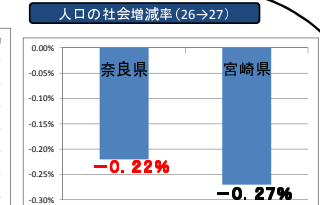
20～39歳人口が全体に占める割合の増減率(23→26) 奈良県:-8.5%(23.87%→21.84%) 宮崎県:-5.7%(20.69%→19.51%)  
 全 国:-7.0%(24.56%→22.84%)

### ○宮崎県と奈良県の違い

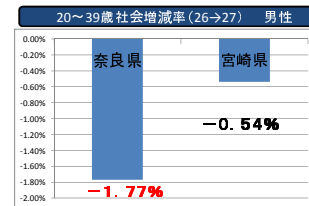
- ・宮崎県の合計特殊出生率は、市町村間にばらつきがなく、全体的に高い。
- ・宮崎県も奈良県も、全体の人口は減少傾向。人口の社会減傾向も同じ。
- ・宮崎県では若い世代(20～39歳)の人口の社会減(特に男性)が小さいため、同世代人口の減少率が低い(若い世代が県内にとどまっている)



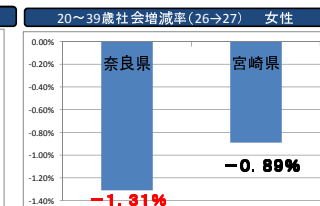
出典:奈良県推計人口、宮崎県推計人口  
 ※宮崎県の27人口は26推計人口に自然増減と社会増減を加え算出



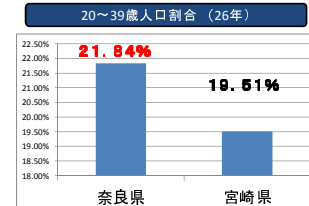
出典:奈良県推計人口、宮崎県推計人口



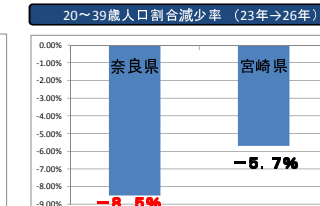
出典:総務省 26年住民基本台帳人口移動報告



出典:総務省 26年住民基本台帳人口移動報告



出典:奈良県推計人口、宮崎県推計人口



出典:奈良県推計人口、宮崎県推計人口